

こんにちは ブラインテックです

第65回 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 統計科学技術センター 図書室 2012年2月

今回は、東京都立川市にある大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所 統計科学技術センター図書室を訪ねました。立川市は国の多数の機関を有する多摩地区の中核都市で、研究所の周辺は立川基地跡地の再開発が行われており交通の便も良い地域です。広々とした敷地に国立極地研究所、国文学研究資料館と建屋を共有しています。今日は図書室の坂井様にお話を伺いました。

—はじめに、組織の概要をお伺いできますか。

昭和19年に文部省直轄の研究所として設立され、昭和60年に国立学校設置法施行令改正により国立大学共同利用機関に転換されました。平成元年に国立大学共同利用機関から大学共同利用機関に改称し、前年開学の総合研究大学院大学統計科学専攻に学生を受け入れ始めました。平成16年に統計数理研究所、国立極地研究所、国立情報学研究所、国立遺伝学研究所の4つの大学共同利用機関で構成される現在の「大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構」が発足、その5年後に港区から立川市に移転し現在に至っています。今年で67年の歴史を持ち、我が国唯一の統計数理の研究教育機関として先端的研究に日々取り組んでいます。



—「大学共同利用機関」とはどのような機関なのでしょうか。

さまざまな研究分野における「全大学の共同利用の研究所」として、個々の大学では整備・維持が困難な最先端の大型装置や大量の学術データ、貴重な資料や分析法等を、全国の研究者に無償で提供して、大学の枠を越えた共同研究を推進する日本独自の研究機関です。この研究所には、統計科学の研究者が多く在籍しており全国の研究者との共同研究を行っています。日本では総研大統計科学専攻以外に統計学科を有する大学は存在しないのですが、データを扱うあらゆる学問分野で統計的な思考力は不可欠ですので、当研究所が大規模な計算設備や図書などの施設利用を提供するとともに、分析法については専門家集団の助言で全国の研究者をサポートしています。



—図書室の特色についてお伺いできますか？

今までは事務室が狭く書庫もフロアがわかれていたので、部屋間の移動も多く大変でした。新しい建屋の中の現在の図書室になってからは、広くなった閲覧室と同じフロアに集約された書庫3から構成され、以前よりも使い勝手が良くなりました。室内の雰囲気も白と木目調の家具を基調とした明るい印象になっています。閲覧室に面した書庫もガラス張りなので、圧迫感も感じないのではないのでしょうか。



この引っ越しには1年以上の準備期間がありました。レイアウト作成、家具の選定だけではなく、点在していた資料の確認なども行ったので時間がかかりました。この作業は忙しかったですね。

現在、職員は3名体制で常勤の私の他2名は非常勤勤務です。土・日曜日は休館、水曜日も発注業務などに充てられているので閉館していますが、閉館時でも所員は入室が可能ですので利用者自身で貸出できるようにしています。

— 広々とした閲覧室や書庫ですが、どのくらいの資料が所蔵されているのですか？

図書は約2万9千冊、雑誌は約3万1千冊です。雑誌タイトル数としては約2,000タイトルありますが、約250タイトルを継続しています。洋書・洋雑誌が7割を占めます。また、電子ジャーナルも利用しています。

統計分野の資料には独自分類を付与し、他は NDC を使用していますが、蔵書の大部分が統計分野で占められているため、蔵書の多くに独自分類が使用されている状況です。

— 利用者へのサービスと貸出についてお伺いできますか？

はい、所内外の方ともご利用いただけます。

教授の場合、代わりに秘書の方が来館されることも多いので、そのような方々には ISBN をはじめとする書誌情報についての説明や OPAC の使い方など、基本的なご説明を随時行っています。学生にも入学時には館内案内や手続き方法などのガイダンスを行っていますが、大学院生ということもあるのか比較的図書館に慣れた方が多いですね。



貸出に関しては、所内の方には貸出期間を長めに、制限冊数を多めに設定して貸出しています。また、閉館時にも入室・貸出が可能で、電子ジャーナルなども利用できるため、開館時間帯以外の利用も多いですね。所外の方も、統計数理研究所で行っている公開講座への参加時だけでなく、専門書を求めてよく来館されます。

数学・物理・経済など各研究者の専門分野が多岐にわたり、幅広い分野の資料が求められるので、ILL を利用した他館への文献依頼も多く利用しています。英国図書館の電子手段による複写サービス (The British Library Document Delivery Service) も使用しているのですが、これも研究者の方々に好評です。

— 図書室の今後の展開についてお聞かせいただけますか？

電子ジャーナルなどが使えるようになってから利用者との直接話すことが減ってしまったので、利用者にとって役立つようにと常に意識しながら運営しています。また、図書室の蔵書を有効活用していただくため、展示による資料紹介ができればと思っています。

— 情報館についてコメントをお聞かせください。

長く利用させていただいています。予算管理も情報館上で行っていて、予算管理や利用統計は件数だけではなく割合も出ることで便利だと思いますし、Jopac は、トラブル時にもリモートで接続してメンテナンスしてもらえるので助かります。



困った時もカスタマサポート部にお電話をするとすぐに対応をもらえることがよいですね。その場で解決できない場合でも状況など教えてもらえることもありがたいと思っています。図書館は少人数で様々な作業を同時進行しているので、疑問点などは電話ですぐに伝えてもらえて安心です。

昨年11月に開催されたユーザー研究会にはスタッフが一人伺ったのですが、いろいろなお話が聞けて良かったと話していました。今後の開催も楽しみにしています

— どうもありがとうございます。何かわからないことがあれば、お気軽にご連絡ください。

様々な知識・学術と一般社会をつなぎ人と人をつなぐ役割を担っておられる貴センターの今後のさらなるご発展・ご繁栄を心よりお祈り申し上げます。本日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所 統計科学技術センター 図書室

〒190-8562 東京都立川市緑町10-3

電話：050-5533-8500 (代)

<http://www.ism.ac.jp/>